

監修：石河 晃 編：「臨床皮膚科」編集委員会

皮膚科診断トレーニング 専門医が覚えておきたい 100 疾患

書評者：田中 勝(東京女子医科大学東医療センター教授・皮膚科)

●どんな本か？

本書はひとことで言うと、既に雑誌『臨床皮膚科』に論文としてきちんとまとめられた症例の中から、特に重要と考えられる疾患 100 症例を抜粋し、クイズ形式でまとめたものである。

100 症例は、皮疹から 14 の章に分けられ、各問には、難易度を表す★が 1～3 個付けられている。各症例、表に臨床写真を中心とした問題、ページをめくると裏に組織所見と解説というパターンで構成されている。

写真と図がメインで文字が少ないという、読者にとって読みやすくてうれしい構成である。

●誰が読むべきか？

はっきり言って、皮膚科医全員が読むべきである。

特に、皮膚科専門医として診断能力を高めたい人と、皮膚科専門医受験前の人には必修である。皮膚科医にとって診断力の向上ほど大切なものはない。

このような本のありがたみは計り知れない。時間のないわれわれ医師にとって、簡潔にまとめられたクイズ形式の症例集というのは、時間を節約しながら知識の吸

収に最大限の効果をもたらすものだ。次の 100 問が第 2 集として出版されるのが楽しみでならない。

●どのように読むべきか？

読み方は人それぞれかもしれない。もちろん、端から一気に読むという方法もあるが、私は興味があるところ、気になるところから読み、途中から加速して一気に読み終わるという方法を一つ提案する。

まず、裏表紙に 10×10 のマス目を書き、1～100 の番号を入れる。目次を見て、最も気になる皮膚症状の項目を選んで、そのページに進む。難易度の★を確認し、初学者は★の問題、診断に自信のある人は★★★の問題を選んで読むのである。1 問読み終わったら裏表紙に戻って該当するマス目に斜線を入れる。これを繰り返すうちに、大部分のマス目が斜線で埋まることになり、全部埋めるのが楽しみとなって、最後は学習が加速すること間違いなしである。せっかくの良い本も途中でやめたらもったいない！

●お薦めの理由

本書をお薦めする第 1 の理由

は、“日常診療で遭遇しにくい、遭遇しても知らなければ診断できないような重要疾患をそろえている”という点である。日常的に頻繁に接する疾患は誰でも診断に迷うことはないが、たまにしか遭遇しない病気というのはよほど日常的に意識していたり、論文を読んだり、学会に参加したりしていないと、頭に浮かばないものである。しかしながら、多くの先生方は日常がきわめて多忙であるため、論文を読む時間は圧迫され、次第に減少しているに違いない。だからこそ、本書を利用することで、短時間に効率良く、たくさんの論文を読むことに匹敵する知識が得られるのではないだろうか？

第 2 に、写真がきれいで文字が少なめである、という点もありがたい。回答と解説が簡潔で明快である。

要するに、皮膚科専門医にとって大事な疾患をととても勉強しやすい！ということだ。

● B5 頁 216 2017 年 6 月
定価：本体 9,000 円＋税
[ISBN978-4-260-03198-1]
医学書院刊